

西曆 2024 年度 事業計画

社会福祉法人 千鳥会

目 次

法人本部	4～6
千鳥会ゴールド拠点 津名デイサービスセンター	7～8
ゆうらぎ拠点・北淡荘 ゆうらぎデイサービスセンター ゆうらぎ訪問介護ステーション 養護老人ホーム 北淡荘	8～12
ほほえみ拠点 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ 千鳥会デイサービスセンターほほえみ 小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	12～17
LEVN 小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり 千鳥会居宅介護支援事業所 千鳥会在宅介護支援センター 家族介護教室・家族介護者交流事業 高齢者住宅等安心確保事業 ちびっこランドぬくもり グループホームRAVIE	17～21
グループホーム しおさい しおさいデイサービスセンター	21～23
佐野デイサービスセンター	23
ちびっこランド ちどり	24～25
千鳥会福祉用具貸与事業所	25

法人本部 事業計画書

西暦 2024 年度目標

新型コロナウイルス感染症については 2023 年 5 月に 2 類感染症から 5 類感染症に位置づけられましたが、依然として感染症が確認され、季節性インフルエンザとの同時流行などもあり、感染拡大防止対策への対応に苦慮しながらの厳しい事業運営の 1 年でした。

その中で、電気代・ガス代等の光熱費や利用者の給食材料、おむつ代等の価格高騰が続き、事業所負担も増額となり、今後もあらゆる物・人件費の高騰が予測され、事業所の経営努力だけでは対応が困難な状況下にあります。

2024 年度から介護報酬の改定率を全体で 1.59%のプラス改定とする方向となり、介護保険制度施行以来、2 番目に高い引き上げ率で、診療報酬との同時改定では初めて診療報酬の改定率 0.88%増を上回りました。

また、現在は 3 つある介護職員の処遇改善のための加算を 1 本化することによる加算率の上昇効果で 0.30%の増、施設の光熱水費の利用者負担増で 0.15%増の効果を見込み、合するとプラス 2.04%相当の改定となるとしています。

基本報酬は特別養護老人ホーム・通所介護などが増額となる一方、訪問介護などのサービスは減額となります。

障害福祉サービス等報酬の改定率は、1.12%のプラス改定となる見込みで、さらに、処遇改善加算の一本化により、0.40%増の効果があり、合せてプラス 1.52%相当の改定となる予定です。

今後も自立支援・重度化防止を重視した、質の高い福祉サービスと安定した運営が提供できるように進めていきます。

『西暦 2024 年度法人取組課題』

I 利用者に対する基本姿勢

- ① 人権の尊重
- ② サービスの質の向上
- ③ 地域との関係の継続
- ④ 生活環境・利用者環境の向上

II 社会に対する基本姿勢

- ① 地域における公益的な取り組みの推進
- ② 信頼と協力を得るための情報発信

III 福祉人材に対する取組

- ① トータルな人材マネジメントの推進
- ② 人材確保に向けた取り組みの強化
- ③ 人材定着に向けた取り組みの強化
- ④ 人材育成

IV マネジメントにおける基本姿勢

- ① コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
- ② 組織統治(ガバナンス)の確立

- ③ 健全な財務規律の確立
- ④ 経営者としての役割

1. 理事会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2024年 6月	理事会 (前年度事業報告・決算報告・監事監査報告)
第2回	2024年 8月	理事会 (経営・運営等の現状報告)
第3回	2024年 12月	理事会 (経営・運営等の現状報告・補正予算)
第4回	2025年 3月	理事会 (新年度事業計画・新年度予算)

※ 臨時理事会を開催する場合があります。

評議員会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2024年 6月	評議員会 (前年度事業報告・決算報告・監事監査報告・役員改選)

※ 臨時評議員会を開催する場合があります。

監事による監査等

開催年月	協議内容
2024年 5月	前年度収支決算の監査

決算書類等の備置・閲覧

定時評議員会の2週間前から備置

3 重点項目

グループホーム RAVIE(ラヴィ)

2024年度増築予定

5床 ⇒ 9床

※ 感染症や災害等への対応力の強化

◎感染予防対策

感染症予防対策として、委員会の開催、マニュアルの整備、研修の実施

感染症が発生した場合でも、必要なサービスが断続的に提供できるための業務継続に向けた計画の策定を推進する。

◎災害等

多くの利用者・職員を預かる千鳥会では、地震などの被害を最小限にする「防災」はもちろん、災害時に事業を維持・早期回復するための「事業継続」を考えた行動が求められています。

そこで、「防災計画」と「事業継続計画 (BCP)」を取り組む必要があります。

「防災計画」人命を守る計画で、食料の備蓄・防災訓練の実施・救護の体制の整備・安否

確認のための連携

「事業継続計画（BCP）」自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損失を最小限にとどめ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき行動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく必要があります。

※人材確保対策の推進

中学校・高等学校等の学校現場への出前授業や専門学校等への就職出前プレゼンテーションを引き続き実施し、介護の魅力発信に努めていく。

※ICT等の活用

超高齢化社会が到来し、今後ますます介護分野の重要性が高まります。その一方で、少子高齢化社会で人材不足が深刻化しています。労働人口が減っていく中で、増え続ける介護需要に応えるには、介護の現場でICT活用による業務の効率性と質の両立を図る重要性があります。

千鳥会ゴールド拠点

2024 年度事業方針

- 1-1. 常にご利用者・ご家族・その周りにいる人の立場に立って良質かつ適切なサービスを提供する。
そのためにもサービスの質の向上に向けた体制を構築する。
- 2-1. ご利用者の生活が施設サービスの中で完結することなく、ご利用者が四季を体感できる取組みや利用者の状態に応じて必要な生活能力を獲得する機会を提供し、生活に潤いや刺激を感じることができる場を提供していく。
- 2-2. 立地環境に応じ、非常災害・感染症に対する具体的計画を整備し、それに基づいて実効性のある訓練を実施していく。
- 3-1. 事業所が運営していくためには、ご利用者・ご家族・地域等からの信頼・協力が必要であり、「見える化」にとどまらない「見せる化」を推進し、積極的な情報発信に取り組む。
- 4-1. 人口減少に伴い労働力人口が減少する中で、良質なサービスを効果的・効率的に提供していく為に、業務の見直し・ロボットや ICT といった先進的な技術を用いた業務を推進していくことを検討する。
- 5-1. 職員の質の向上、福祉サービスの質と量の向上の「要」となるリーダー層の育成に取り組む。
- 6-1. 福祉サービスは対人サービスが基本であり、その職業上高い倫理性が求められることを職員一人ひとりが自覚し周知徹底していく。
- 7-1. 公益性に根ざした事業活動を可能とするために、適正な収益を確保し、安定的な財務基盤を確立する。
- 7-2. 2024 年度の介護報酬改定に伴い、体制の構築と加算取得を目指し安定した運営を行う。

特別養護老人ホーム千鳥会ゴールド

2023 年度 総括

職員の退職・体調不良の影響により厳しい運営状況になりましたが業務内容の見直し、業務体制の変更を行いました。しかし、職員の確保が難しく、入所利用人数を抑えた為、稼働率は平均 83.4%（長期+短期：61 名）になりました。感染症発生については、引き続き感染予防対策を徹底できたことで施設内でのインフルエンザ・コロナ等の発生は無く、安全な運営ができました。コロナが 5 類以降後も感染対策内容の見直しを図り、対面面会の開始、各フロアでの催しの開催等通じて、ご利用者が楽しみ安心して生活ができるよう支援することができました。また、施設での取組みやご利用者の様子を知ってもらうために SNS を活用し、外部やご家族に発信することができました。現在長期入所待ちが 82 名、2023 年度の申込者が 39 名おり、選ばれる施設としての取組み、サービスの維持ができておりますが、来年度も顧客満足向上、サービスの向上に向けて取り組んでいきたい。

2024 年度事業計画

2024 年度は、職員体制の確保、業務内容の見直し等により安定した収入の確保、サービスの向上、顧客満足向上を目指して取り組みます。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP 計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い、安心、安全な運営に努めたい。

津名デイサービスセンター

2023年度 総括
今年度の稼働率の平均は74.6%（前年度比較：+4%）。延べ利用者数9655人（+767人）。新規利用者数38名（+4名）となっており、利用者確保、収益確保ができました。職員の退職、異動もありましたが、業務改善（i-Pad活用による記録時間の短縮、レクへの導入など）、業務分担、業務内容の見直しを図ることでサービスの質を落とすことなく、選ばれるデイサービスとしてサービスの維持ができました。事故、アクシデントについてはリスクマネジメントを行うことで、大きなクレームや事故に繋がることもなく対応ができ、また引き続き感染予防対策を行うことで、安心、安全に利用して頂くことができました。外部への取り組みとしては、淡路市通所連絡会への参加、地域との交流（津名高校文化祭参加、コロコロアートコンテストへの出展）、SNSを活用した取り組みの発信などを積極的に行うことでデイサービスの良さ、取り組みをアピールすることができました。
2024年度 事業計画
2024年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持、向上することで、収益を確保していきたい。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い、安心、安全な運営に努めたい。

ゆうらぎ拠点・北淡荘

2024年度 事業方針
1-1. サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために、積極的に予防処置を立案し、事故防止に努める。
1-2. 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。
1-1. BCP（事業継続計画）に基づき、大規模災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが継続できるように訓練を実施する。
1-1. 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の教育訓練を充実させることにより、倫理意識の向上に努める。
2-1. 基本的な感染対策を実施しながらも、視点を変え、新たな気持ちで、利用者が日々喜びを感じられる生活環境提供に努める。
2-2. 利用者情報（過去の経歴）を把握することにより、身体的・精神的に安全な利用者環境提供に努める。
3-1. 施設の魅力・提供するサービスの内容等、積極的に情報発信することにより、法人のブランド力向上に努める。
4-1. 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
4-2. 明確な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援を実施し、職員満足度向上に努める。
5-1. 正しい判断力と優れた創造力を持ち、責任感の強い職員の育成と高度な専門技術習得支援に努める。

- 6-1. 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則の周知徹底を実施し、法令及び規則違反の撲滅に努める。
- 6-2. 2024 年度介護報酬改定法令を遵守し、加算取得に努めることにより適正な収入を確保し、健全な運営を実施する。
- 7-1. 稼働率の向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。
- 7-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を実施する。

特別養護老人ホームゆうらぎ

2023 年度 総括

ゆうらぎでは、転倒等の事故分析がスムーズに行えるように独自の分析・集計表を活用しています。統計によるアセスメントの他、予防対策にも力を入れており、月平均 4 件以上の予防処置を立案し対応を行っていますが認知症入居者への対応増加や人員不足による見守り時間の減少等により 2023 年度について、骨折や医療機関への受診が必要な重大事故が 4 件発生しています。継続したリスクマネジメントを行い同じ事故を繰り返さないように、事故防止に力を入れていきたいと思っております。2023 年度は、5 月 8 日より新型コロナウイルスの感染法上の分類が第 5 類に変更となり、社会全体として制限の緩和を行う流れとなり、ゆうらぎとしても対面面会の拡大等に取り組むところがありますが、9 月、12 月の 2 回、施設内コロナ感染発生により面会休止を余儀なくされる場面もありました。高齢者施設においては、まだまだ安心できる状況にはありませんが今後も感染リスクを勘案しながら対面面会による利用者様、家族様の喜びを提供できるよう模索していききたいと思っております。

施設利用状況について 2022 年度末での総稼働率 88.7%と厳しいスタートではありましたが、多くの利用者様、家族様、居宅介護支援事業者様、医療機関様のご理解、ご協力により。2024 年 2 月末までの年度間平均総稼働率 95%と大きく向上しています。ただコロナ等の感染症や職員不足の深刻化による受け入れ縮小等も検討せざるを得ない状況にあり、その対応により施設運営も大きく左右される可能性も今後予想されます。そのような厳しい状況にありますが利用頂いている利用者様や家族様にご迷惑をかけることがないよう、ゆうらぎ全体として精一杯取り組みたいと思っております。

2024 年度 事業計画

2024 年度も感染症の動向や慢性的な介護職員不足により施設運営も大きく左右される可能性が高いですが、利用頂いている利用者様や家族様への感謝を忘れず、高品質なサービスを提供できるようゆうらぎ全体で取り組みたいと思っております。利用実績については、2022 年度は平均総稼働率 88.3%とゆうらぎ開設史上最低の稼働率となり施設運営を継続するにあたり厳しい数値ではありましたが、2023 年度については地域のニーズを確認しながら積極的な受け入れを行った結果、平均総稼働率は 95%近くまで改善しています。これも地域の居宅介護支援事業所様や医療機関様のご理解、ご協力があってこそと思っております。2024 年度についても、その感謝の気持ちを忘れず信頼される施設を目指し、細やかな連絡調整、利用様の受け入れに取り組みたいと思っております。最後になりますが、2024 年度は介護報酬改定となり、BCP 事業計画等も義務化され、介護報酬を算定していくにあたり、マニュアル作成、確実な会議や勉強会、訓練の実施等の根拠が求められます。ゆうらぎ全体として計画的に勉強会等の教育訓練に取り組み、義務化された項目について確実に実施すること

により、サービスの維持、向上に繋げることができるよう取り組みたいと思います。

ゆうらぎデイサービスセンター

2023 年度 総括

デイサービスでは稼働率向上を最大の目標とし、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指し、利用者に満足して頂けるよう職員個々が知恵を出し合い、常に新しい行事・レクリエーションを企画・実施し、日々変化のあるデイサービスを目指し頑張っており取り組んでいっています。

2023 年 4 月は新規利用者・利用回数増回の方が多数おられ、稼働率は前年度を大きく上回る事ができていました。しかし入院や施設入所の方が増えつつあったり、また台風接近のため臨時休業日があったり、8 月最終週にはコロナ感染者が急増し、外部利用者がお休みされたり、入院等で長期間休まれたり、特定の利用自粛があったり、そしてまた 12 月中頃から 1 月中頃まで特定でコロナ感染があり利用が中止となったりと、稼働率が大きく落ち込んでしまいました。日頃からの感染対策と予防を徹底し、利用者・家族の理解を深め、事業所内での蔓延を防ぐ事につとめていきます。

利用者の高齢化に伴い、体調不良で入院されたり、独居が難しくなり施設入所されたりする方がこれからも増えていくと思いますが、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指すため、たくさんの喜びの声を頂くと共に、楽しく過ごす様子を SNS にて発信していくことで、選ばれる施設になれるよう職員一丸となって精一杯取り組んでいきたいと思っています。

2024 年度 事業計画

デイサービスでは、利用者の「自立支援・重度化防止」を軸足に置いた介護を基本とし、利用者が可能な限りその居宅においてその有する能力に応じて自立した生活を営むことが出来る様サポートと、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持を図るとともに、家族の介護負担を軽減するなどの役割もしっかりと担って頂ける様関係事業所と密に連携をとり運営していきたいと思っています。レクリエーションの充実を図ることで、体を動かすゲームや作品作りなどで刺激のある生活を送り QOL(生活の質)の向上により認知症予防に繋げたり、筋力を強めることで寝たきり予防をすることに繋げていきます。

利用者・家族の個々の要望を聞くことにより、満足度 UP に繋がり、稼働率向上、また利用数増回に向けていきたいと思っています。

様々な感染対策を徹底し安心・安全な環境を提供する事、職員研修・BCP 事業計画の充実を図り、稼働率向上に職員一丸となり取り組んでいきたいと思っています。

ゆうらぎ訪問介護ステーション

2023 年度 総括

どの事業所でも同じですが、新型コロナウイルスが五類に移行されてからも未だに落ち着かず、感染対策に気を使ってきました。感染ゼロを目標とし、訪問介護員が媒介することもなく過ごすことが出来ました。災害や感染症の発生時、サービスが継続できるように、BCP について学びました。まだまだ不十分であり今後の課題として、BCP（事業継続計画）については、何かをもう一度学びなおして事業所として災害発生時にはどう対応していく事がいいのか、事業所独自の BCP はどうしたらいいのか取り組んでいかなければならない。

教育訓練についても職員一人一人新たな気付きや振り替えることによりより一層意識も向上し

たかと思えます。そのおかげもあり、利用者に満足されるようサービス内容の充実・見直し、信頼関係を築くことにも頑張ってきました。職員一同初心に帰り新たな気付き、勉強会等で学んだことを活かし視点を変えての取り組みを実施してきました。普段何気ない当たり前の介護の中でそれが当たり前ではなくご利用者や家族からの声にも目を向け対応してきました。その中で喜びの声もたくさんありました。「また来てほしい」「訪問介護員（ヘルパーさん）の顔を見ると安心する。元気が出た」「来るのを楽しみにしています」「誕生日カード嬉しい」と取り組みに対しての嬉しい言葉も頂きました。家族様よりサービス記録表に「いつも細かな対応ありがとうございます」「とてもよく動けるようになってきて家族で喜んでいきます」等のコメントや嬉しいお言葉をいただくことも増えサービスの向上に繋がっているのではないかと感じています。中には訪問回数を増やしてほしいとの希望も多々あります。この信頼関係は直ぐにできるものでもないし、日にちをかけるのもいいものでもないですが、私たち訪問介護員にとって何よりありがたいお言葉でした。訪問介護員の日々の積み重ねと思いたいです。

利用者数は、施設に入居する方や入院が長引く方が多いなかで終了する方もありまた、新規利用者も少しずつ増えました。新規依頼もたくさんありお受けできないことも多々ありました。

来年度も、訪問介護の満足度を上げ利用者に喜んでいただけるよう実施していきたいと思えます。事業所の情報発信（ヘルパーだより）も目標に上げていましたが取り組み中のままなので実現出来たらと思っています。

2024年度 事業計画

安心して在宅生活を送れるよう危険な箇所やヒヤットしたことがあれば予防処置を立案し事故を未然に防止するまた、ご利用者のニーズを把握し、対応。可能性の実現を目指し生活の質の向上を考えてプランを実施し、生活の質の向上に努める。ご利用者のアセスメントをしっかりと取り会話の中で過去の経歴等にも触れ話題づくりも行い一人ひとりに合ったサービスの提供、環境を含み考えサービスを提供する。接遇及び、アンガーマネジメントを引き続き学び、職場内環境を整え職員同士、ご利用者、ご家族との良い関係を気付く。

今後も感染対策として手洗い、マスクの着用を継続しつつ感染予防換気、密集、密接密閉回避し、集団感染ゼロを目指す。その他、しっかりと教育訓練の計画を立て高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の勉強会の実施を行い、訪問介護員としての倫理観を身につけ、意識の向上を目指す。また、介護保険、法令遵守についても学ぶことで、良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努めます。

広報誌等の事業所の情報発信について昨年度はパンフレットの見直しのみしか出来ておらず今年度は情報発信に努め、加算取得、更なる稼働率の向上を目指し経費削減にも務め取り組んでいきたいと思っております。

養護老人ホーム北淡荘

2023年度 総括

2023年度は、北淡荘稼働率向上を最大目標とし、この1年間通して職員一丸となり活動してきました。2023年2月稼働率82.7%からスタートした年度初めでしたが、2024年2月には86.9%まで引き上げる事が出来ました。2023年度、新規入所者数25名、退所者数14名。

ひとつの目標として、自主退所者ゼロを目指す事を掲げ、今年度では自主退所者ゼロを達成する

事ができました。理由として、コロナ5類移行による、規制緩和。利用者の自由の幅も広がり、施設生活を以前より充実出来た事が挙げられます。また職員も目標達成に向けて、利用者の要望・不満を以前より増して親身に聞き取り、出来る限り叶えていけた結果だと思えます。

2023年12月北淡荘2階利用者でコロナウイルス感染を確認。瞬く間に感染が拡がり、累計感染者数2階利用者45名、職員7名という集団感染が発生しました。

2022年に発生したクラスターの経験を活かしつつも多くの感染者を出す結果となってしまいましたが、幸い今回の感染により死亡者を出すことなく、又3階への感染拡大を防ぐ事が出来ました。未だコロナに対する経口治療薬や予防投与がない以上、今後も起こりえる可能性が十分にあります。

現在はワクチンに頼らざるを得ない状況にありますが、日頃からの感染対策・予防を徹底し、集団感染を発生させないよう留意しながら利用者の生活を守っていきたいと思えます。

2024年度 事業計画

北淡荘全体の計画として、今年度も稼働率向上を最大の目標として、福祉事務所・関係機関と密に連絡をし、新規入所者確保に努め取り組んでいきたいと思えます。

既存の利用者に対し、職員全体で事故防止・感染防止対策に留意し、健やかに施設生活を継続して頂けるよう努力して行きたいと思えます。職員間に対しては、職員育成に力を入れると共に、良好な人間関係の構築、誰もが働きやすい、協力し合える職場環境を整えていきたいと思えます。

事務部では、経費削減、加算取得の要件の確認を行い、事業所運営に必要な安定した収入を確保し、経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理の実施に取り組んで行きたいと思えます。栄養調理部では、利用者の要望に応えた食事の提供、食べる楽しみを持って頂くことにより、利用者満足度の向上を目指していきたいと思えます。残食率の高い献立を把握し、フードロス削減に取り組み無駄のない食材管理に努めていきたいと思えます。

ほほえみ拠点

2024年度 事業方針

1-1. 褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等のゼロ宣言。また、教育訓練を充実させ、倫理意識を向上させる。

1-2. 介護技術や知識等の内部研修や外部研修への積極的な参加を行い能力向上に努め、ケアの向上を図る。

1-3. 感染対策の徹底と感染予防を継続し集団感染ゼロを目指す。

1-4. 予防処置の徹底し前年度より重大アクシデント発生を減らす。

1-5. 介護保険制度改正による新たな加算の取得や制度変更等に沿った対応を行う。

1-6. 介護現場のタスクシェア・タスクシフティングの推進

2-1. 事業所が有する人的・物的機能を活用し、事業所自ら又は地域の団体等と連携して、様々な地域貢献活動を積極的に展開する。

2-2. 各事業所において緊急・困難ケースについて可能な限り受け入れるなど、セーフティネット機能を果たす。

3-1. 施設における様々な取り組み等をSNS・広報を通じて情報発信を行い、ご家族や地域等に対し

て必要な情報を提供する。

5-1. 職員の資質向上と職業倫理の徹底を図るために、各種研修会の開催や外部研修会に積極的に参加する。

6-1. 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則、法令の周知徹底を行い、法令及び規則違反を無くす。

6-2. 災害BCP計画に基づき地域住民と共同した災害訓練を実施し迅速に避難対処・対応が出来るようにする。

7-1. 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

地域密着型特別養護老人ホームほほえみ

2023年度 総括

開設から12年が経ち、2023年度は

- ① 職員への教育訓練、内部研修の充実と外部研修への積極的な参加を行う。
- ② 感染予防の継続と感染対策の徹底を図る。
- ③ 重大アクシデントを前年度より減らす。
- ④ 介護ロボットの導入を行う。
- ⑤ 利用者、家族の満足度を高める。
- ⑥ 地域貢献活動を再開する。
- ⑦ 緊急、困難ケースの受け入れを可能な限り行う。
- ⑧ 事業継続計画の策定を行う。
- ⑨ 安定的な収入を確保する。

を大きな目標として進めてきた。

①については、生活相談員、介護職員、看護職員、管理栄養士、調理職員含め、全職種が専門分野の外部研修に参加し、知識や技術の習得を行うと共に事業所内に情報の共有や水平展開に努めた。

②については、9月度に短期入所利用者7名、職員5名の計12名が新型コロナウイルス感染症に罹患し、新規利用者の受入制限、利用者の隔離対応や職員不足による職種間や部署間の連携、介護職員の配置転換や業務調整等を行ったものの終息までに約2週間を要した。

③については、重大アクシデント件数の比較として2022年度が3件、2023年度が5件となった。2023年度の内訳としては「利用者の全身状態の急激な悪化による救急搬送」が1件、「職員の介助による事故」が1件、「利用者の食事時の窒息による事故」が1件、「利用者の歩行時の転倒による事故」が2件となった。

④については、介護ロボット等の展示会や講習会、研修会に参加し、試験的にデモ機を一定期間使用、効果確認を行ったうえで導入する介護ロボットの選定を行った。また、施設全体のICT環境も補助金を利用し整え2月末に全居室(39床)に見守りシステム(離床センサー、カメラ機能など)の導入を完了した。

⑤については、月行事や定期イベント以外に小グループに分かれ、全ご利用者を対象に外出や外食支援を行った。また、家族に向けては利用者との面会を1年間通して継続的に行い、施設職員から家族へ利用者の様子や病状等を記した手紙と施設での様子を撮影した写真を毎月欠かさず送付したことで沢山の「喜びの声」を頂いた。

⑥については、地域貢献事業を2回実施した。1つは、浦小学校の2年生が生活科の授業(町探検

で素敵な場所の秘密を調べる)として職員と意見交換を行い、もう一つは学習小学校4年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を淡路市職員と共同で行った。

⑦については、新規長期入居者7名、新規短期入所者20名を受け入れた。また、受け入れた利用者の中には独居や身寄りの無い方、認知症状の進行により在宅での生活が困難な方、また医療面においてバルーンカテーテル留置、インスリン注射が必要な方(他施設では受け入れ困難な方)の受け入れも行った。

⑧については、専門の講師を招いて施設内で勉強会を開催し、また外部研修にも参加した上で2月度に感染症と自然災害発生した際の計画書を策定した。

⑨については、「総稼働率98.0%以上」については、9月度にコロナウイルスの集団感染や利用者の入院等が相次いだ時期もあったため、数値的な目標は達成できなかったが、介護報酬の収入については前年度に引き続き、予算以上の成果を得ることが出来た。

2024年度 事業計画

1-1. 1-2. 1-3. 褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント、集団感染のゼロを目指す。

1-4. クレーム、アクシデント及び重大アクシデント(行政への提出する事故)の件数を前年度より減少せる。

1-5. 職員の資格獲得のための支援を強化し、サービスの質の向上と新たに算定可能な加算の取得を行う。

1-6. 介護ロボットやテクノロジー等の活用を通して、業務の共同化、移管、生産性の向上を図る。

2-1. 3-1. 利用者、家族、関係機関、地域住民や学生等との交流や地域貢献活動を実施し、情報共有や発信を行う。

2-2. 緊急受入や困難ケース等のニーズに合わせたサービス調整を部署間連携し、柔軟かつ積極的に行う。

5-1. 全職員対象に1回以上/年、資質向上と職業倫理の徹底に繋がる研修会や講習会、交流会、活動等に参加する。

6-2. BCP計画の完成度を高めるために各部署や職種間で訓練、勉強会等を重ね、3月度に地域住民との災害訓練を実現する。

6-1. 7-1. 法令順守および収入の確保(総稼働率80%以上/年)と経費の削減を継続的に行う。

千鳥会デイサービスセンターほほえみ

2023年度 総括

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策は継続しながらもデイサービスの活動の幅が広がりました。

兼ねてからの課題である、ほほえみデイサービスの特徴とは、外部の方の声がたくさん届いた2023年度。

「活動・行事の充実」・「心を元気にしてくれるデイサービス」。何をするにも心が元気でないときできない。“やる気”を育て、元気であることを喜び合えるデイサービス。これが、ほほえみデイサービスの特徴です。

1 稼働率85%を目指して、実践したこと。

①ご利用者の社会参加の場とする。

1) 安心して自分らしく過ごせる場の提供 他のご利用者との関係性を考え、楽しく過ごせる席をご準備。

2) 社会的孤独感の解消 固有名詞で個々に話しかけ、役割が持てる居場所や活動を提供。

②自立支援

1) ご家族や主治医・ケアマネジャーとの連携

在宅生活で困難になってきたことや、病状の変化等、気づいた事を、その都度連絡し合い、在宅生活を支援する。

2) 生活機能訓練 口腔体操やケア・いきいき 100 才体操・歩行練習 (歩こう会)・マッサージ等歩こう会や、マッサージを実践し、主治医の先生から、「むくみが軽減しているから続けなさい。」・「階段が上がるようになった。血行が良くなった。」等々の声があり、身体機能の向上が見られる。

3) ご家族との連携を図り、相談窓口となる。

③QOL の向上

1) 孤独になりがちな環境の改善や引きこもりを予防し、趣味や経験を活かし活躍できる場を提供することでやる気を育て、QOL の向上に繋げる。

2) 集団活動への参加が楽しみになるように職員が支援する。

④ご家族の負担減少

1) 身体機能の維持・向上、認知症の進行予防に努め、ご家族の身体的、精神的負担の軽減を図る。

2) 栄養バランスの取れた食事の提供・入浴介助・配食サービスを利用し、ご家族が遠方に入る方やお勤めされている方、老々介護の方等が、安心していただけるように相談窓口を広げ対応している。

*2023 年度 6 月実施 顧客満足度アンケートご家族より

「独居の母ですが、温かいサポートにより一人の生活が支えられている事を心から感謝しております。」

2023 年度は、目指せ 120 才！を、合言葉に、ご利用者と職員が一丸となって活動を楽しんだ 1 年でした。新規ご利用者に至っては、ほほえみデイ指名や、ご利用者の紹介等が多数あったことが今年度の風潮です。

2023 年度の平均稼働率 78.1% (昨年比 2.6%) 新規ご利用者も増え、週平均が 30 名を超えることもあり安定していましたが、直接感染症による影響ではなく、間接的に 9 月・12 月・1 月の 3 ヶ月、北淡荘 (特定) 利用が半減した事と、転倒による骨折や心不全等の急な入院が、稼働率低下の要因となりました。また、収入面においても平均介護度が低下したこともあり、当初予算には及ばない結果となりました。

職場環境の改善については、物理的環境や仕事の負荷も含め、安全を配慮した快適な職場環境を目指し前向きに取り組んでいます。サービス面では、介護技術やサービスの質の向上を図り 2 名が介護福祉士に挑戦し、広報では、毎月 SNS や、会報誌を用いてデイでの生活の様子や活動を発信、また、年 2 回のアンケート調査を実施し、サービスの向上に繋げています。

2024 年度は、災害時に備え地域の方々との連携が図れるように、BCP 計画に基づく活動を展開していきたいと思っております。

2024 年度 事業計画

1-1・1-2 倫理意識の向上を図り、施設内外の「褥瘡・高齢者虐待・身体拘束・ハラスメント等」の早期発見に努める。

- 1-3 感染症対策を継続し、集団感染ゼロを目指す。
- 1-4 同じ事故を繰り返さないように対策の強化と共有を図り、重大事故防止に繋げる
- 2-2 緊急・困難ケースを可能な限り受け入れる。
- 3-1・7-1 施設における取組や、活動等を、会報誌やSNSを通じて発信し、開かれたダイサービスとして知名度を上げる。
- 1-2・5-1 職員の質の向上と職業倫理の徹底を図り、職員レベルに合わせた勉強会の実施と、施設内外の研修会に積極的に参加する。
- 6-1 災害BCP計画に沿って、災害時に迅速に避難対処、対応が出来るようにする。
- 7-1 独自の新たな取り組みを考案し、稼働率の向上や各種加算の取得に努め、安定した予算管理を行う。

小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ

2023年度 総括

2023年度は、4月の利用登録者実績が23名からのスタートとなり、年間での平均利用登録者数は24名程度と、2022年度の27名程度から大きく利用実績が低下してしまいました。新規登録者数は昨年度の3名から9名と増えていますが、入院や利用終了が大きく影響した事が実績低下の要因となっています。昨年度に引き続き、登録ご利用者だけでなく、外部ショートステイご利用者の受け入れも実施し、空きベッドの活用に取り組みました。また、淡路市からの緊急の対応依頼に対しても、登録ご利用者へ影響がないよう、泊り通い定員を超えて迅速・柔軟に対応しました。

2023年度の取り組みとしては、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、事業所内だけでなく地域行事への参加や外出行事の開催をテーマとしました。地域行事では、地元久留麻神社の春祭りや節分祭、淡路市敬老会に参加しました。外出行事では4月には4年ぶりのお弁当持参でのお花見会や、お店での外食を含めた紫陽花、紅葉見学、元旦の初詣等を開催しました。一泊旅行についても秋頃の開催を検討していましたが、感染状況拡大の影響により中止することとなりました。久しぶりの地域行事への参加や、外食等の中でご利用者の皆様の笑顔を多く見ることが出来ました。

感染状況については、ご利用者、職員の感染があっても、事業所内での感染拡大に至らない状況が続いていましたが、1月に職員の新型コロナウイルス感染から、ご利用者3名と他職員1名の感染がありました。陽性者への対応について、自宅療養中の訪問対応、事業所内での療養対応と、初めての事でしたが感染BCPに基づいた対応を行い、大きな感染拡大に繋がらず療養期間を終える事が出来ました。

職員状況としては、5月に1名入職、12月より復職1名あり、継続していた人員不足が解消され適切な人員配置を行う事が出来ています。申し送りや部署会議等、情報の伝達と共有を円滑に行い、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。職員教育の面では、2021年度の介護報酬改定で定められた研修の受講はオンライン研修にて終える事が出来ました。また、事業所、部署内勉強会を実施しましたが、各職員の外部研修参加は出来ておらず、来年度への課題となっています。

2024年度は、介護報酬改定があり基本単位数は微増となりますが、新規加算の設定により現行の加算が減算、報酬全体ではマイナスになる見込みです。新規加算を算定出来るよう対応し、報酬全体でプラスとなるよう対応していきたいと考えています。新規利用調整に加え、事業所の機能を

活用して緊急・困難ケースの受け入れを行い、2023 年度以上の実績を目指し安定した運営に努めます。また、職員のスキルアップとケアの向上を図り、ご利用者・ご家族に満足していただけるサービスを提供し、在宅生活を支える力となるよう取り組みたいと考えています。

2024 年度 事業計画

1-1. 1-2. 褥瘡、虐待、身体拘束、ハラスメントのゼロを継続し、各職員が内部研修、外部研修に参加することで、倫理意識と能力の向上を目指す。

1-3. 感染症対策・対応を徹底し、感染症の予防と発生時の適切な対応を行うことにより集団感染を防ぐ。

1-4. インシデントの活用による未然防止、アクシデント対策の徹底による再発防止に取り組み、事故件数を前年度より削減する。

1-5. 介護保険制度改正について、対応可能な加算の算定とご家族への説明をスムーズに行い、制度改正へ対応する。

2-1. 事業所内の他部署や、外部関係機関と連携を図り、地域への貢献活動に取り組む。

2 - 2. 関係機関との連携を図り、緊急・困難ケースについても出来る限り受け入れを行う。

3-1. 事業所内での取り組みや行事の SNS での発信を継続し、ご家族や地域への情報提供に取り組む。

6-2. 災害 BCP 計画に基づいて、地域との共同訓練を実施し、適切に対応出来るように取り組む。

7-1. 新規利用者、外部ショートの調整を行い、年間トータルでの目標稼働率、予算の達成を目指

LEVN

2024 年度 事業方針

1-1. 利用者視点でのサービスの質向上と事業の価値創造

1-2. 多事業所連携を図り、サービスの向上を目指す

1-3. 利用者・家族の満足度向上につながる、良質なサービスの提供。

2-1. 感染症対策に係る体制を充実し、安心したサービスの提供と充実した余暇を提供

2-2. 災害時に全職員が行動できる体制作りを目指した BCP(事業継続計画)を構築する。

2-3. 地域福祉の拠点となり、高齢、障がい、児童等の福祉ニーズに応える取り組みを行い地域共生社会の実現に寄与する。

3-1. 地域・ご家族に信頼と協力を得るための事業活動の積極的な情報発信を毎月行う

4-1. 業務の標準化と職員間の連携強化

4-2. 働きがいのある職場作りと資質や技術の向上を目的とした研修への積極的な参加

5-1. 専門職としての知識・援助の質の向上への取り組み

5-2. 職員一人ひとりの成長とリーダーの育成を目指す

6-1. 介護・保育・障害事業制度及び法人規定・人事・労務等様々な法令順守の徹底

6-2. 2024 年制度改正に対応し、速やかに実行（加算等の取得）・周知（体制の構築）を行う。

7-1. 現有資源の有効な活用と経費削減を行い効率的な業務執行。

7-2. 事業計画と実績との検証を行い、計画通りの事業運営を目指す。

7-3. 明確な目標値の設定とともに毎月の分析・報告により運営参加の意識付けを行う。

小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり

2023年度 総括
<p>2023年度は2023年2月に拠点移動実施、6月に管理者変更と事業所内に大きな変化があった1年となりました。6月にはソフト導入に伴い、ペーパーレス化を行い業務の無駄や手間を省くことができました。地域ケア会議や地域活動への積極的な参加、空きベッドを利用し短期利用者の積極的な受け入れなどで事業所の知名度、信頼性を高める努力を行い登録者人数4月は16名であったが徐々に件数を増やすことができました。</p> <p>サービスに関しましては新型コロナウイルスが5類に移行したことで感染状況を見ながら昨年度は全くできなかった外出レクリエーションを行うことで顧客満足に繋がりました。職員やご利用者の体調管理を徹底し2023年度はクラスター発生することなく運営することができました。</p>
2024年度 事業計画
<p>2024年度計画といたしましては引き続き感染対策をしっかりと行いつつも、ちびっこランドぬくもり、グループホームRAVIEとの交流や地域行事への参加することで地域住民との交流を深めていきます。利用者、家族、近隣住民との更なる信頼関係作りに努め、多職種でチームとなり支援していくよう努めます。ニーズの把握に努め、個人のニーズとしてとらえるのではなく地域課題として多職種と問題解決に向け取り組んでいきます。</p> <p>法令順守の周知徹底と職員個々の知識、資質の向上に努めます。またペーパーレス化や業務の効率化を推進し職員が働きやすい環境作りに努めます。</p> <p>小規模多機能型居宅介護事業所という特性を活かし柔軟な対応を行い、利用者へのより良い支援の提供を行うことで選ばれる施設を目指し登録者数確保に努め適切な事業運営を遂行していきます。</p>

千鳥会在宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

2023年度 総括
<p>23年4月から24年1月までの実績は、要介護のケアプラン件数が132件から119件への下落、新規利用者は月平均3.2件、要支援のケアプラン件数が20件から24件の上昇、新規の月平均は0.9件であり、目標であったケアプラン件数145件には至らず、下落幅は12月終了時点で13件であり年度途中であるが下落幅最低であった昨年度より2件多い結果となった。</p> <p>件数の推移に関しては4月から9月まで130前後を維持していたが、10月以降大幅に下落が続き12月で120件を切り、例年と同様に初秋まで上昇ないし維持の動きをしても冬に大幅に下落する動きとなってしまっていた。</p> <p>一方で、例年と比べ著明に下がったのが新規の平均件数であり、従来は4ないし5件を維持していたところ3前半台まで落ち込んでいることが挙げられる。特に8月9月は例年新規件数が大きくなる傾向にあるが今年度はそれぞれ2件、1件に止まった。理由に関しては推測の域を出ないが、4月5月にかけて新規受け入れを抑制した時期がありその影響が出たのではないかと推測する。</p> <p>以上より、目標達成に至らなかったことについて以下2点が原因ではないかと予測する。まず第1に、従来課題であった終了する件数の抑制が依然改善出来ていなかったこと、第2に新規を抑制した動きがより下落を進める方向へ影響を与えた可能性を挙げる。来期は上記2点について改善</p>

を行い、目標件数を目指したい。

2024年度 事業計画

総括に基づき来期は、新規獲得のための活動を従来以上に積極的に行うこと、また死去以外の終了や流出を最小限度にとどめること、の2点を柱として事業を進める。

利用終了については、その一因である施設入所に関して、在宅継続の可否を担当個人で考えず事業所全体で検討する機会を必ず設けることをルール化し運営する。また他事業所への流出に関して、接遇やリスクに関する勉強会を行うこと、サービス担当者会議でフォローすることで防いでいく。

新規に関しては、受け入れを止めないことはもとより、状態改善を目指した計画立案の励行およびケース検討会議でのフォローによるケアマネジメント向上、さらに在介の活動を新規獲得の中心に事業所全体で民生委員など地域住民とのつながりを積極的に持つことで新規につながる道筋の強化を図るようにしており、それらの継続を中心に行っていく。

千鳥会在宅介護支援センター（淡路市委託事業）

2023年度 総括

2023年度は地域の様々な組織と繋がり、地域の問題、課題を見つけ、集め、検討、出来る事を考える事を繰り返した年度でした。大きな成果としては、独居高齢者訪問事業から民協、社協、淡路市健康増進課等と協力しながら新規いき100会場の立ち上げを行い、健康づくり、地域の集いの場を作る事ができました。初回に20人以上の地域住民が参加され、淡路市でも少ない大規模な会場となりました。委託事業の予算についても、達成する事ができました。目指すべきは地域包括ケアシステムの構築だと考えますが、目の前の問題を解決、整理しつつ、形にできるように各機関と協力していきます。

2024年度 事業計画

少子高齢化、団塊の世代の2025年問題、人材、サービスの不足等が叫ばれて久しいですが、淡路市ではそれぞれの問題により、高齢者の暮らしが脅かされています。高齢者の生活を守るために課題の解決方法を考えたとしても、すぐに政策や実行に移れない内容も多いですが、解決に繋がる様に検討、議論、提案を重ねます。誰もが安心して暮らせる仕組みである、地域包括ケアシステムの構築に向け、取り組みを継続します。

高齢者独居訪問、地域応援活動、いきいき100歳体操支援についても月間予算目標を重ね、年度の100%達成を目指します。各組織、各機関と協力、連携を行う中で信頼関係を深め、居宅介護支援事業の利用者の確保にも繋がる様に動きや関わりを工夫します。

家族介護教室・家族介護者交流事業（淡路市委託事業）

2023年度 総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味ある方を対象に介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに配慮し、計画。コロナウイルスの分類が5類になった事もあり、家族介護者教室については、予定していた5回全てを行う事ができた。平均参加者数6名。ほとんどが介護者OBであるが、居場所や自己研鑽等を目的として参加。家族介護者交流事業については聖隷福祉事業団と協働で3月に開催し、内容は映画『ケアニン』を予定。

2024年度 事業計画

家族介護者教室については前年同様に年5回を予定。座談会、医療・健康、作業療法・物作り、福祉用具、施設見学、実技、終活・成年後見、様々な介護保険サービスについての説明、その他等の内容を選定、組み合わせ実施。介護者OBが増えている現状を委託元の包括と検討。現役で介護を行っている参加者についても家族会や各ケアマネジャーを通じ、案内し、参加者数が増える様に募っていく。

高齢者住宅等安心確保事業(淡路市委託事業)

2024年度 事業計画

高齢者住宅入居者が地域に於いて自立した日常生活を営める環境、相互支援が可能なコミュニティの形成。効果的な社会資源の利用による、高齢者住宅入居者のQOLの維持、向上に努める。

ちびっこランドぬくもり

2023年度 総括

2023年2月に千鳥会としては2つ目の保育事業所「ちびっこランドぬくもり」を開設、新しい地域でのスタートを切りました。3名の園児の入所に始まり、4月には定員6名のマックスの6名の入所があり、そのほか一時預かりの園児の受け入れを積極的に行いました。保育指針をもとに、年齢別年間保育計画、自由あそびと集団活動の設定保育時間をバランスよくもりこみ、発達過程や個々の個性に配慮した月間保育計画を作成し、異年齢児が楽しく過ごせる保育内容の充実に努めてきました。異年齢の子ども達と一緒に過ごし自由に遊ぶ中で、小さい子への思いやりの心も芽生えました。

行事に関しては、季節に応じた行事計画を作成・実施、感染状況を見ながらですが、小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもりのご利用者、グループホームRAVIEのご利用者の方との交流行事にも参加し、子どもたちにとってかけがえのない経験をすることができ、個々の成長に繋げることができました。

感染症に関してですが、感染予防を徹底しておりましたが、12月にインフルエンザA型の集団感染が発生しました。幸い、職員は一人の感染者もでませんでしたが、改めて乳幼児の感染拡大の速さに職員一同痛感し、感染予防対策の再確認を行いました。

近年様々な保育事情が話題となっています。職員間で保育の見直しを行い、全職員で問題解決に向けて話し合い、その子にあった保育の提供を心掛けています。保護者や保育者と密な情報交換を行い子ども達の環境づくりに努め地域における子育てニーズを把握し、地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上と保育環境や保育機能また、保育内容の充実に図り計画、実施していきたいと思っております。

2024年度 事業計画

年齢に応じた落ち着いた保育環境の中で子どもたちが安心し、安定した生活が保障され充実した毎日を送れるよう、就労支援と育児支援の両方の社会的相互効果を深める保育計画を立案し実施していきます。保護者や地域の子育て家庭に情報を発信し、子育て力向上の充実に図りながら、一時保育や土日保育など、地域のニーズに対応した保育を行います。

四季を肌で感じる様々な遊びや行事を計画し、実際になんでも経験し、実感できる保育を実施し

ていきます。感染状況を見ながら、地域・併設事業所等の交流行事も検討していきます。

災害に備え、園児・職員の安全を第一として様々な場面を想定した災害時訓練の実施と園内外の設備等の安全確認を実施します。

グループホーム RAVIE

2023 年度 総括

2023 年 4 月にグループホーム RAVIE がスタートし、4 月に 1 名、7 月 2 名、8 月 1 名、9 月 1 名のご利用者が RAVIE を利用していただくことになりました。おかげで定員の 5 名満床になり、RAVIE でのご利用者の生活が始まりました。

毎月、イベントを開催し、10 月には多機能と保育と合同で LEVN フェスを開催し、高齢・保育・障害の交流が出来ました。RAVIE からのご利用者に参加していただき、楽しんでいただけました。ご利用者のお誕生日には、お誕生日会を開催し、ご利用者のお祝いができ、喜んでいただきました。

広報活動にも取り組みました。毎月のインスタグラムの更新を行い、RAVIE での様子を情報発信し、広報誌におきましても年 3 回発行することができ、ご家族や関係機関に RAVIE の取り組みを見ていただく機会を設け、知名度の貢献が出来ました。

感染症に関しましては、新型コロナウイルスに感染したご利用者がいましたが、他のご利用者や職員に感染することはありませんでした。日頃から感染対策に取り組んでいた結果だと思います。

運営に関しましては、収支があわず、繰入や借入を行いながら、運営して参りました。ペーパーレス化による経費削減、人件費削減のため、時間外業務削減に取り組みました。週末ご利用者が自宅へ帰ることが多くありましたが、イベントを設けながら、RAVIE で過ごす時間を増やし、収益増加にも取り組みました。

地域活動に関しては、自立支援協議会の仕組みについて学び、相談支援部会や、サビ管連絡会に参加し、RAVIE の情報発信や、他事業所との情報交換・交流に努め、横のつながりを構築してきました。津名地区の地域ケア会議にも参加し、地域での課題や取組について共有しました。

2024 年度 事業計画

2024 年度は、RAVIE 増床計画を掲げ、収益の確保・経費削減に取り組み、安定した運営が行えるよう、計画的に取り組んでいきます。

また、2023 年度に行なってきたことを引き続き行いながら、さらにご利用者が RAVIE で過ごしたくなるようなイベントの開催、日々の支援について RAVIE 職員一団となってチームとして行動していきます。

今後起こりうる災害発生時でも、業務が継続できるよう、BCP 計画の活用を行い、見直しを行いながら、運営を進めていきます。

グループホームしおさい・しおさいデイサービスセンター

2024 年度 事業方針

1-1. 地域圏域におけるただ一つの認知症対応型サービスの専門性を活かし、認知症ケアの主たる社会資源として機能する。

- 1-2. 法人理念・事業所理念に沿い、認知症ケアへの支援者倫理を高める。継続的改善を重ね、実際の支援に還元していく。
2. 引き続き感染症や非常災害への備えを行いながらも、以前のように共同生活においても地域住民としての当たり前の暮らしが行えるよう外部へ向けた取り組みを深めていく。
- 4.5 専門職を揃えたチームケアのなかで、引き続き年齢や得意分野に応じた職員ひとりひとりの役割の明確化と居場所作りを行う。職員の高年齢化にあっても長く活躍できる場の提供と長期的な世代交代への窓口作りを行っていく。
4. 職員の高年齢化にあたり、過度な心身の負担なく業務が継続できるよう、利用者職員にとって安全安楽な介護が提供できるよう順次、施設環境の設備を改善していく。

2023 年度 総括

2023 年度は長らく続いた新型コロナウイルス感染症が第 5 類感染症に移行し、新たな生活様式もとの事業運営となり、蔓延続きなかの事業所運営となりました。

ご利用者との生活において、以前の日常を取り戻す取り組みを行いながらも、第 9 波、第 10 波と感染拡大もみられるなか、引き続き感染予防が求められる日々が続きました。以前の日常を取り戻す取り組みにつきましても、家族との面会交流については、感染拡大の有無や程度に関わらず、必ず直接顔を合わせてもらえるよう天候をみながら、敷地内屋外ベンチや玄関ホールを面会スペースとして提供。健康チェックに協力も得て、互いの感染予防のもと家族や友人同士の時間を持ってもらいました。月平均でも 30 組以上の面会者が訪れています。また住民や社会福祉協議会主体の地域の行事の場に参加、地域に出向くことも再開しています。トライやるウィークにあたり感染予防のもとの中学生の実習受け入れ、オンラインを活かしたこども園との運動会交流など、コロナ禍以前と以後の事業所としてツールを増やしたあらたな関係機関との交流のかたちも見出しています。メリハリの効いた対応により、感染予防とコロナ禍での日常のケアを両立してきましたが、12 月に利用者 1 名と職員 2 名が新型コロナウイルスに感染。事業所内で初めて利用者が療養、感染対応することになりました。以前の法人内外の事業所の感染対応の経験をもとに、事業所設備や比較的 ADL が保たれた認知症利用者への対応など、事業所の特性も考慮した事業所の想定通りの対応ができ、結果感染対応期間も 9 日間で終息させることができました。

事業所運営につきましては、入居者の高齢化重度化に伴い入院療養も相次ぎましたが、共用型デイサービスや空床・緊急ショートステイにて地域の認知症利用者へ支援依頼も多数あり、入居層稼働率も 98%程度を維持、共用型デイ（定員 3 名）も 1 日 2 名程度の利用者への支援を行い、安定した事業運営を行えています。

2024 年度は事業所開設 20 年を迎えます。開設以来、従事する職員も多数在籍するなど、職員の高年齢化も顕著となってきました。日々の介護業務が身体的な過度な負担にならないよう、事業所設備の改善を行い、長らくの事業所の経験や特殊なスキルを活かして、職員ひとりひとりが長く活躍できる事業所づくりにも取り組みを深めていきます。地域に向けては、引き続き旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症の専門的なサービスとして、施設サービス在宅サービスを一体的に提供し、地域の社会資源として更に機能していくことが責務ともいえます。それに応えながら、地域密着型のサービスとして、各関係機関との連携や地域住民との交流の機会も積極的に見出し、新たなグループホームしおさいのカタチを確立していきたいと考えています。

2024年度 事業計画

2024年度も旧一宮町におけるただ一つの認知症対応型共同生活介護施設として、「しおさい」ならではのケアを提供し、認知症ケアの地域の要として機能していきます。複数の専門職の構成で多様なアプローチとチームケアにより、認知症症状の日常生活動作等の悪化を防ぎ、予防、緩和を図ります。感染症の流行については、引き続き感染予防が求められます。流行地域の感染情報を確認しつつ、生活（生活の質）や健康の維持のために必要なものは、外部との交流なども過度に制限することなく、事業所ならではの取り組みにつながるようにしていきます。職員間では、職員相互の融和な協力と交互に交代できる業務体制のもとで、業務の効率化等を図り、安全に勤められる職場作りを目指します。特に職員の高齢化も顕著となっており、物理的な環境（ハード面）を整備することで介護の予防、負担の軽減となるように改善に取り組みます。運営については、予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行い、今後の大規模修繕が実施できるようにシミュレーションを立案し、計画立てて実施遂行していきます。

佐野デイサービスセンター

2024年度 事業方針

1. 単独の通所事業所の強みを活かせる様、事業所内教育を用いて職員個々の質の向上を図る。
2. 感染対策を講じながら、感染症の位置づけが変化する中での外出行事や施設内レクの向上を図る。
3. SNSを活用し、社会に情報発信を行う。
4. 職員の声を聴き、働きやすい環境づくりを行う。
5. 専門職としての質の向上を図るため、積極的な内部・外部研修への参加を図る。
6. 法令に関して勉強会を行い、コンプライアンスの徹底を図る。
7. 稼働率の向上、経費削減を行う事で安定した収入を確保する。

2023年度 総括

今年度の稼働率の平均は75.9%（前年度比較+7.5%）。延べ利用者数4919人（+640人）。新規利用者数33名（+16名）となっており、利用者確保、収益確保ができました。年度初めに職員の異動・退職もありましたが、残った職員で力を合わせ、業務改善、業務分担、業務内容の見直しを図ることでサービスの質を落とすことなく、デイサービスとしてのサービスの維持ができました。事故・アクシデントについてはリスクマネジメントを行う事で、大きなクレームや事故に繋がる事もなく対応ができ、また引き続き感染予防対策を行う事で、安心・安全に利用していただくことができました。職員が不足したことにより外部へ発信するような行事を行うことができませんでしたが、出来る範囲の中で利用者満足度を向上させる取り組みはできました。

2024年度 事業計画

2024年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持、向上する事で、収益を確保していきたい。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い安心・安全な運営に努めたい。

ちびっこランドちどり

2024年度 事業方針

- 1-1. 地域や家庭のニーズに応じた新たな取り組みやサービスを展開する。
- 1-2. 現状の保育サービスの見直しを行い、安全で楽しく主体的な園生活をおくることができるよう質の向上を図る。
- 2-1. すべての子どもが健やかに成長できるよう、適切な環境のもと、暖かで家庭的な保育の実現を目指す。
- 2-2. 事故や感染症の予防・対処の際の職員の対応力の向上を図る。
- 3-1. 利用者・家族・地域の声に耳を傾け、SNS等を通じて情報発信を定期的に行う。
- 4-1. SNSの利用や地域との交流を通じてちびっこランドちどりの良さを発信し、雇用促進に繋げていく。
- 5-1. 常に日々の業務を振り返り、改善の意識を持ち、職務の評価、フィードバックを継続的に行う。
- 5-2. 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、各種研修会の開催や外部研修会に積極的に参加する。
- 5-2. 保育理念を踏まえ、常に法令等を遵守するとともに報告・連絡・相談を円滑にする環境を整える。
- 6-1. 経費削減に努めながら、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。
- 6-2. 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

2023年度 総括

今年度は、コロナが5類に移行したことで、少しずつ今までの日常が戻ってきましたが、子どもたちに安心・安全な保育を提供できるよう、これまでのように、マスクの装着・手洗い・消毒・換気など感染対策を考え、日々過ごしてまいりました。

行事計画では、前年度までは保護者の方に参加して頂く事が出来なかった、納涼祭・祖父母参観など、保護者の方に参加して頂き行うことが出来ました。ほほえみの利用者の方々とも、納涼祭・節分会などの行事を通し、交流する事が出来ました。これらの行事を通し、子ども達・保護者の方、利用の方のたくさんの笑顔を見ることができ、行事ができたことの喜びを職員一同感じ、次への意欲となりました。

食育活動では、園の畑で夏野菜の栽培や、秋にはさつま芋の収穫をし、冬には大根も収穫しました。大根を使い、大根もちを調理して食べ、子ども達もとても喜んでいました。種や苗を植え、水をやり、野菜が大きくなる過程を観察し、育った野菜を収穫し、収穫した野菜を調理して食べるという一連の経験は、子ども達にとって貴重な経験になったことと思います。

保護者に対する支援では、子育ての悩みに共感し、助言をし、一人ひとり向き合うようにしました。また、SNSを活用し、園生活の様子、行事の公開等、子どもたちの成長を届けることに務めました。

保護者の皆様にもご協力を頂いたおかげで、大きな混乱もなく子どもたちが安心して園生活を送り、無事に一年を終えることが出来ました。今後もより良い保育を提供し、子ども達が笑顔で過ごせる保育園を目指し、努力していきたいと思っております。

2024年度 事業計画

1. 地域の方や保護者とのかかわりを大切にした保育行事を展開していく。
2. 職員間同士で日々の保育や業務の振り返りを継続的に実施し、保育の質の向上に努める。
3. 一人ひとりの子どもの気持ちをしっかりと受け止め、安定した生活を送ることができる環境づくりを行う。
4. 様々な体験を通し、子どもの主体的気持ちを育てていく。
5. 園児・職員の安全を第一に考え、災害時や感染時の対策を行うとともに、臨機応変な変更・見直しを行う。
6. 園での様子や行事をいろいろな角度からわかりやすく公開し、情報提供をしていく。
7. SNSで情報を公開し、一時保育・土日保育など地域や各家庭のニーズに対応した保育を行う。
8. 外部研修の参加、勉強会の実施を行い、知識向上に努める。
9. 保育所としての専門性を活かし、職員間で共通の理解と協調性を高めていく。
10. 月々の予算設定、経費削減、進捗状況管理に努める。

千鳥会福祉用具貸与事業所

2024年度 事業方針

- 1-1. サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために事故防止に努める。
- 1-2. 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。
- 1-3. 教育訓練を充実させることにより、倫理意識の向上に努める。
- 6-2. 2024年度介護報酬改定法令を遵守し、適正な収入を確保し、健全な運営を実施する。
- 7-1. 稼働率の向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。
- 7-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を実施する。

2023年度 総括

2023年度も北淡荘の利用者に福祉用具の貸与を行いました。福祉用具を利用して頂く事で、利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の希望や心身の状況・生活環境などをふまえ、今後も適切な用具を選び援助していきたいと思っています。

2024年度 事業計画

福祉用具とは、車いすや手すりなど、高齢者や障害者の自立をサポートし、介護する方の負担を軽減する用具を指します。

福祉用具貸与事業は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送る事ができるよう、指定を受けた事業者が、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な福祉用具を選ぶための援助や取り付け、調整を行い福祉用具を貸与します。